

Index

■ 2025 年度地下開発利用研究センター
事業計画

■ 2024 年度第 6 回地熱発電・熱水活用研究会
開催報告

■ 会員の皆様へのお知らせ

□ 退任挨拶

□ 新任挨拶

■ 2025 年度 地下開発利用研究センター 事業計画 ■

I エンジニアリング及びエンジニアリング産業に関する調査研究

(1) 自主事業

エンジニアリング及び同産業を取り巻く内外の諸環境の変化を的確に把握し、かつ、地下空間の開発利用に係る社会的潜在ニーズの調査、発掘、要素技術の開発動向の把握等を行い、ニーズに即した社会システム等を開発・提案し、賛助会員、社会等のニーズに応えるために、以下の事業を実施する。

①「研究企画委員会」

共通基盤的課題に係る調査・研究・開発を推進するために、研究企画委員会及びその下部機関である研究企画ワーキンググループにおいて、事業企画立案を行う。

また、当センターが取り組むべき複数の調査研究テーマに関して以下の研究会において具体的な検討を実施し、今後の補助・受託事業の受託に資する検討結果を取りまとめる。

- 1) 放射性廃棄物研究会
- 2) 地熱発電・熱水活用研究会
- 3) 計測技術研究会
- 4) 水素インフラ研究会
- 5) 地盤環境研究会

②「地下利用推進部会」

新規テーマとして「AI を含むデジタル技術の活用による地下インフラの効率的な整備・運用に関する調査研究」を計画する。1 年目は「地下インフラ事業全般における AI を含むデジタル技術の適用状況」を調査し、事業の効率化に向けた方策や課題を整理する。その結果を踏まえ 2 年度目には「地下インフラの調査・設計から建設・運用、防災・危機管理のあらゆるステージで AI を含むデジタル技術が有効に活用され、社会課題解決のために地下インフラ分野が寄与する方策」を取りまとめ提言する。研究は以下の 3 つの部会で個別に検討を行うとともに、各部会の部会長・副部会長で構成する幹事会を設け、部会間の調整、連絡、検討の深化と全体の取りまとめを行い、調査研究を推進する。

- 第1部会：地下インフラの調査・設計におけるAIを含むデジタル技術の活用に関する調査研究
 第2部会：AIを含むデジタル技術を活用した地下インフラの建設・運用に関する調査研究
 第3部会：地下インフラの防災・危機管理機能向上に資するAIを含むデジタル技術の活用に関する調査研究

③ その他の調査研究

- ・地下空間の開発利用に関する内外の動向について調査し、資料収集・分析等を行う。
- ・大深度地下開発、再生可能エネルギー開発等に関する調査研究を実施する。

II エンジニアリングに関する研究開発

(1) 自主事業

公共的かつ先導的な個別課題等について、地下開発に関する新技術の研究開発を行う。2025年度の重点課題は以下のテーマである。

- ① 再生可能エネルギー、脱炭素燃料貯蔵、地熱発電・熱水活用等の関連技術の推進（研究会他）
- ② 地下空間利用プロジェクトの創出検討（既存インフラの新たな価値の創出検討等）
- ③ 地下利用推進部会による地下空間利用の調査の推進（現地見学会・ヒアリング等を含む）
- ④ 自主研究を受託事業へ結びつける情報収集と情報発信の強化

(2) 受託事業

総務企画部等と連携・協調し、公的機関・各種団体等からの研究開発及びフィージビリティスタディ等への企画提案、公募に積極的に応募して、受託拡大に努める。特に、以下の項目について、重点的に受託活動を進める。

- ① 地熱・熱水活用プロジェクトの事業化推進（国・地方公共団体等への支援、受託等）
- ② クローズド地熱発電システムの事業創出のための研究開発の推進
- ③ 地下空間利用プロジェクトの創出・提案
- ④ 脱炭素燃料の既存原油タンクへの貯蔵等の検討

更に、技術部（海洋開発室）、エネルギー・資源環境安全センターと連携して、協会横断的なプロジェクトの創出に取り組む。

III エンジニアリングに関する普及啓発（自主事業）

- ① 「地下情報化部会」の活動を通じ地下情報データベース整備と情報発信を継続して取り組む。
- ② 当センターホームページの内容の充実
- ③ 「GEC ニュース」の発行（毎月、メールマガジン配信）
- ④ 国内見学会、日帰り見学会の実施
- ⑤ エンジニアリングシンポジウム2025の開催（本部と共同）
- ⑥ エンジニアリング功労者等の表彰（本部と共同）
- ⑦ 特別講演会、ビジネス講演会等の開催（本部と共同）
- ⑧ 研究成果発表会の開催（本部と共同）
- ⑨ 関係省庁等の行政情報について、総務企画部等とも連携・協調し、積極的な収集及び賛助会員への有益な行政情報（新規施策、重要法改正等）の提供に努めるとともに、地下開発に関わるエンジニアリング関連団体との連携交流の促進を図る。

地熱プロジェクト推進室

地下開発利用研究センター業務と連携して、特に、地熱発電・熱水活用事業の事業創出につながる活動を、賛助会員の力を統合して、公的機関・各種団体等からの受託拡大を目指す活動を実施する。更に、今後必要となる地熱発電・熱水活用の事業創出のための研究開発も、賛助会員と連携して、公的機関・各種団体等からの受託の獲得に努力する。

■ 2024 年度第 6 回地熱発電・熱水活用研究会 開催報告 ■

3月13日（木）に第6回地熱発電・熱水活用研究会（委員長：海江田 秀志 様 鹿島建設株式会社）を開催しました。

第1部講演は「地熱発電の開発加速化に向けた取り組み」と題して、資源エネルギー庁 資源・燃料部 政策課 地熱資源開発室長 小林 貴成 様にご講演いただきました。

講演では、地熱開発加速化パッケージの概要として地熱開発における課題を認識し、新たな促進フェーズとして「地熱フロンティアプロジェクト」を推進することや、自然公園などの規制が厳しい地域での蒸気噴出をターゲットにし、事業者への譲渡や貸し出しを検討している。環境省との連携強化により、環境影響評価の迅速化や規制運用の円滑化を図るため、「地熱発電推進に係る連絡会」を設立したなどの説明をしていただきました。

第2部講演では、「秋田県湯沢市 かたつむり山発電所 開発の現況」と題して、出光興産株式会社 資源部（兼）小安地熱株式会社 取締役 後藤 弘樹 様にご講演いただきました。

かたつむり山発電所は秋田県南東部に位置し、地域の親しみやすい名前として地元の人に選ばれました。地熱資源調査は1970年代から行われており、現在も複

数の発電所が稼働中です。公園内の調査には林道整備が必要で、小口径掘削から始め、大口径調査へと移行していきました。2017年には噴気試験を実施し、有望な結果が得られています。

発電所の設計は経済性を重視し、資源量評価に基づいて1万4990kWから1万5000kWの出力を目指しているとのことでした。

研究会は会場約30名、Webより約80名の方にご参加いただき、各講演では質疑応答も活発に行われました。研究会終了後に開催された意見交換会には、講師の方にもご参加いただき活発な情報交換がされていました。なお、地熱発電・熱水活用研究会での過去の配布資料は、当協会ホームページ（下記URL）よりご覧いただけます。（配布されない場合もあります）

https://www.ena.or.jp/gec/project_info



小林 貴成 氏



後藤 弘樹 氏

■ 会員の皆様へのお知らせ ■

□退任挨拶

澤井 康（地下開発利用研究センター 技術開発部 担当部長）

2025年4月末日をもちまして、地下開発利用研究センターを退任することとなりました。2023年9月より1年8か月の間、各部会や研究会委員の皆様と共に活動させて頂き、ご指導ご鞭撻頂きながら、職務を全うすることができました。厚く御礼申し上げます。

在任中は、研究企画委員会、研究企画ワーキンググループ、地下利用推進部会幹事会、水素インフラ研究会、日帰り見学会などの業務を担当し、多くの会員の皆様と楽しく仕事をさせて頂きました。会員の皆様には業務多忙の中、積極的に当センターの活動にご尽力頂きましたこと、改めて御礼申し上げます。

今後は出向元の清水建設㈱に帰任し、主に都市土木関係工事の設計、施工計画に携わる予定です。出向中に得られた知識・経験と皆様とのご縁を活かしながら、誠心誠意業務にまい進する所存です。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご健勝を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

□退任挨拶

武井 孝（地下開発利用研究センター 技術開発部 研究主幹）

2025年4月末日をもちまして、地下開発利用研究センターを退任することとなりました。2023年4月より2年1か月の間、協会の皆様、各部会や研究会委員の皆様と共に活動させて頂き、ご指導ご鞭撻頂きながら、職務を全うすることができました。厚く御礼申し上げます。

在任中は、主に、地下利用推進部会、放射性廃棄物研究会、地熱発電・熱水活用研究会などの業務を担当し、多くの会員の皆様に出会い、また、出向元では経験できないような体験をさせて頂きました。

会員の皆様には業務多忙の中、積極的に当センターの活動にご尽力頂きましたこと、改めて御礼申し上げます。

今後は、出向元の大日本ダイヤコンサルタント（株）に帰任しますが、出向中に合併してしまい、現在どうなっているか分かりません。たぶん、出向前の所属先に戻り、全国の海辺の発電所で地質、岩盤調査に携わる予定です。今後も、出向中に得られた知識・経験と皆様とのご縁を活かしながら業務に携わっていこうと思っております。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご健勝を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

□新任挨拶

松原 洋（地下開発利用研究センター 副所長）

産学人材開発部より異動しました松原 洋(まつばら ひろし)と申します。2020 年度から 3 年間を地下センター、その後 2 年間で産学人材開発部にて様々な事業に従事してきました。本年度より再び地下センターで業務することになり、楽しみでもあり、不安でもあります。産学人材開発部との兼務になりますのでご迷惑をお掛けする時もあるとは思いますが、

改めて皆様にはご指導ご鞭撻をいただき、地下センターならびにエンジニアリング業界の活性化に微力ながら貢献できれば幸いです。



□新任挨拶

古谷 充史（地下開発利用研究センター 技術開発部 研究主幹）

この度、4 月 1 日付けで川崎地質(株) より地下開発利用研究センターに着任いたしました古谷 充史（ふるや あつし）と申します。

出向元の川崎地質(株)では、主に数値解析を用いた各種地盤調査に携わりました。ここ 5 年ほどは、国土交通省による BIM/CIM 運用開始に伴い、地盤構造の 3 次元モデルによる可視化に携わってきました。

地下開発利用研究センターでは計測技術研究会、地下情報化部会、地下利用推進部会、GEC ニュースの発行等を中心に担当させていただきます。これまで経験した分野とは異なることから、皆様にはご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、微力ながらお役に立てるよう努力いたします。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

